様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　１ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ００３８１

研究課題名（和文）朝鮮渡り唐本の総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive Study on Chinese Books Imported from Korea

研究代表者
芳村　弘道（YOSHIMURA, HIROMICHI）

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：５０３３０００６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：　「朝鮮渡り唐本」とは朝鮮半島を経由して日本に伝来した中国で出版または筆写された漢籍である。OPACや全国漢籍データーベースなどの電子情報、各所蔵機関の蔵書目録を参考利用して基礎的所在目録を作成した。その結果220余部を確認。これをもとに国内の所蔵機関（京都大学・東京大学・東京都立中央図書館・慶應大学・同志社大学など）の蔵本を閲覧・調査した結果、朝鮮の著名学者の旧蔵本が多数存在することが明らかになった。また韓国の調査も行い、近代になって日本から再び朝鮮半島に回帰した「朝鮮渡り唐本」を確認し、日中韓の書籍交流の実態に新たな知見を加えることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　これまで朝鮮半島から日本に伝来した唐本は着目されることが稀で、この研究は「朝鮮渡り唐本」の専門的な調査、研究の開拓者となった。調査結果から、現存の「朝鮮渡り唐本」が質量ともに誇りうることが判明し、東アジアの学術研究の重要資料として認識する必要性を呈示し得た。また豊臣秀吉時代や近代における朝鮮半島から日本への唐本の伝来だけでなく、日本から海外への「朝鮮渡り唐本」の移動があったことを本研究によって解明し、書籍の伝播、流通が東アジアの歴史・社会情勢の潮流に影響されてきたことを確認し得た。

研究成果の概要（英文）："Chinese books imported from Korea" means Chinese published books or manuscripts that were brought from China to Japan via the Korean Peninsula. We created a basic catalogue of these books and their collections by referring to electronic information service such as OPAC and National Database of Chinese Classics, and catalogs of books of each institution. As a result, more than 220 copies were confirmed.
Based on this, we browsed and investigated the collections of domestic institutions (Kyoto University, University of Tokyo, Tokyo Metropolitan Library, Keio University, Doshisha University, etc.), and found that there are a large number of books formerly owned by famous Korean scholars. We also conducted research in South Korea and confirmed the existence of "Chinese books imported from Korea" that returned to the Korean Peninsula from Japan in the modern era, adding new knowledge to the actual situation of books exchange between China, Japan and Korea.

研究分野：中国古典文学・漢籍文献学

キーワード：漢籍　唐本　書籍流通　朝鮮渡り唐本　東アジア学術交流

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

総合的に東アジアの漢籍についての研究を行うには、中国から強い影響を受け、また日本に大きな影響を及ぼした朝鮮半島の漢籍を考察に加えることが不可欠である。しかし、これまでは主に日本と中国の二国間における事象のみに焦点を当てた研究だけが行われ、日中韓の交流という重要な視点が欠如していた。朝鮮半島を経由して日本に伝来した中国刊写の漢籍である「朝鮮渡り唐本」が日本に少なからず収蔵されているが、従来の漢籍研究では「朝鮮渡り唐本」について特化した研究が見られない。そこで日中韓の書籍を通した文化交流を「朝鮮渡り唐本」から解明しようとした。

２．研究の目的

日本国内現存の「朝鮮渡り唐本」が総量でどれくらいあり、またどのような唐本があるのか。それぞれの「朝鮮渡り唐本」が、いつ、どこに、どのようにしてもたらされたのか。そもそもそれらは中国のどこで、いつ、どのように作られ、いつどのようにして朝鮮に渡り、朝鮮半島で受容されたのか。その受容の際になんらかの変容はあったのか、なかったのか。こうした「問い」を明らかにし、日中韓の書籍交流を「朝鮮渡り唐本」という新視点から解明しようとすることを目的とした。

３．研究の方法

従来の漢籍目録では「朝鮮渡り唐本」も等しく唐本と著録され、「朝鮮渡り」であることが明記されることが少なかった。既存の書誌情報から「朝鮮渡り唐本」と確認し得る書籍目録を作成する。実際には一本一本閲覧して確認することを要するので、作成した目録をもとにして、各収蔵機関に赴いて閲覧・調査を行う。朝鮮風の装訂や、朝鮮学者の所蔵であることを示す印記・識語等に注目しながら慎重に調査を行い、また各収蔵機関の書物の受け入れ状況等を調べる。その成果をまとめ、解題稿を作成し「日本伝存朝鮮渡り唐本解題集」を編集する。

４．研究成果

2019年度においては、その現存情況の基礎的な所在目録を、OPACや全国漢籍データーベースなどの電子情報、各所蔵機関の蔵書目録を参考利用して作成した。その結果220余部を確認でき、蔵書印などから「朝鮮渡り唐本」が多数もたらされた時期として、第一に近世初の文禄・慶長の役を契機とし、第二には近代の日韓併合以後であることを明確にし得た。調査は京都大学人文科学研究所と東京大学総合図書館の蔵本を終えた。国外では10月に韓国に赴き、ソウル大学奎章閣・韓国中央研究院蔵書書閣・成均館大学・高麗大学校の集部明版を調査した。蔵書閣において李王室旧蔵本『楚辞評林句解』『分類補註李太白詩』が韓国に回帰した「朝鮮渡り唐本」であることを見出し、日本国内だけの調査では不十分なことを知らされた。20年2月22日に研究成果報告会を開催、韓国調査本の報告及び高麗大の魯耀翰研究教授「李朝初期唐本輸入概括―経部を中心に」、慶應義塾大学斯道文庫の住吉朋彦教授「論語句解の伝播について―朝鮮渡り唐本管見」の研究発表を行った。

2020年度も昨年度作成「朝鮮渡り唐本所在目録」に基づく調査を行い、京都大学人文科学研究所の明万暦版『白氏長慶集』等、東京都立中央図書館市村文庫に訪書。後者では明正徳2年刊の『全唐詩話』が曲直瀬正琳「養安」の蔵書印を有し、文禄・慶長の役による将来本と分かった。また陽明文庫では明正徳版の『群書考索』と明正徳４年刊の『璧水群英待問會元選要』を調査した。いずれも明初の福建に名高い愼獨書齋劉洪と愼獨齋劉弘毅の出版書であるとともに、前者にはハングルでの書名や朝鮮学者の書き入れを見、また近衞家熙以前の蔵書印により江戸初期以前の伝来であることも知られ、注目すべきであった。11月14日、韓国の成均館大学校大東文化研究院の国際会議（Zoom Online）「東亜文献学的全新視角―資料環流和書目収蔵―」に、芳村弘道が「朝鮮渡り唐本の研究について」、住吉朋彦が「慶應義塾図書館蔵〔南北朝末隋〕鈔本《論語疏》巻六の文献価値」を発表した。20年3月20日、研究成果報告会を開催（Zoom Online）、住吉朋彦「徳川家康の慶長御譲本について」、芳村弘道「朝鮮渡り唐本調査報告」のほか、萩原正樹・富嘉吟・靳春雨の報告がなされ、南京大学の金程宇教授、高麗大学校の魯耀翰研究教授も参加し、意見交換を行った。

2021 年度も継続して「朝鮮渡り唐本所在目録」を用いて閲覧調査を行った。京都大学人文科学研究所では清乾隆刻本の『王右丞集箋註』を調査した。この本は李朝後期の著名な学者の金正喜の旧蔵本であった。同志社大学人文科学研究所所蔵の明万暦二十二年重刻（清修）の南監本『宋書』を閲覧し、藏書印調査により李朝中期の学者尹汲の旧蔵本と判明。慶應大学附属研究所斯道文庫「坦堂文庫」の蔵本を閲覧した。大提学などを歴任、数学・天文学にも通じた南秉哲の旧蔵本である明末刻本『唐元次山文集』のほか、李朝末期の武臣・政治家の李載先旧藏本の明末刻本『東坡先生詩集』など五点等を調査した。3 月 12 日に立命館大学第 3354 回土曜講座「和漢の書香」で、芳村弘道が朝鮮渡り唐本の明成化刻本『事物紀原』などの漢籍を紹介した。また 25 日

に研究成果報告会を開催（Zoom Online 併用）し、魯耀翰「李朝初期唐本輸入概括―集部を中心に」、住吉朋彦「古城坦堂旧蔵の朝鮮渡り唐本について」、芳村弘道「立命館大学所蔵の漢籍貴重本」などの研究成果が発表され、南京大学の金程宇教授なども参加して意見交換を行った。『立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要』第 15 号に芳村が「朝鮮渡り唐本の研究について」を発表した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計18件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 芳村弘道（魯耀翰　訳）	４．巻 113
２．論文標題 朝鮮渡り唐本の研究について	５．発行年 2021年
３．雑誌名 大東文化研究	６．最初と最後の頁 11-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 芳村弘道	４．巻 14
２．論文標題 立命館大學白川靜記念東洋文字文化研究所所藏の朝鮮本『選賦抄評註解刪補』について	５．発行年 2021年
３．雑誌名 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要	６．最初と最後の頁 51－60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 住吉朋彦	４．巻 55
２．論文標題 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵旧鈔『論語義疏』伝本解題	５．発行年 2021年
３．雑誌名 斯道文庫論集	６．最初と最後の頁 67-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 富嘉吟	４．巻 72
２．論文標題 松崎慊堂の陶淵明受容について－石経山房本『陶淵明文集』の刊行を中心に－	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本中国学会報	６．最初と最後の頁 218-231
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 キン春雨	4．巻 70
2．論文標題 山口剛と詞―「槐南朱批『梧桐雨』」と『荷塘印影』を手がかりとして	5．発行年 2020年
3．雑誌名 学林	6．最初と最後の頁 46-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 芳村弘道	4．巻 68
2．論文標題 古筆切の李善注本『文選』について	5．発行年 2019年
3．雑誌名 学林	6．最初と最後の頁 1～25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 富嘉吟	4．巻 68
2．論文標題 官版『唐人選唐詩』底本考－兼ねて林家旧蔵の『唐人選唐詩』寫本に及ぶ	5．発行年 2019年
3．雑誌名 学林	6．最初と最後の頁 58～83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 富嘉吟	4．巻 664
2．論文標題 『苑詩類選』について	5．発行年 2019年
3．雑誌名 立命館文学	6．最初と最後の頁 334～348
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 富嘉吟	4．巻 129
2．論文標題 『文苑英華』所據『白氏文集』諸本考	5．発行年 2019年
3．雑誌名 文史	6．最初と最後の頁 8～18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 住吉朋彦	4．巻 664
2．論文標題 五山版の装訂	5．発行年 2019年
3．雑誌名 立命館文学	6．最初と最後の頁 472～489
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 芳村弘道	4．巻 15
2．論文標題 朝鮮渡り唐本の研究について	5．発行年 2022年
3．雑誌名 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要	6．最初と最後の頁 11～33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 萩原正樹	4．巻 72
2．論文標題 志村五城と竹内東仙の詞―神田博士『日本における中國文學』補遺	5．発行年 2021年
3．雑誌名 学林	6．最初と最後の頁 103～117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 萩原正樹	4．巻 8
2．論文標題 和刻本『事林廣記』に見える宋詞について―『全宋詞』未收「迎仙客」詞六首―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 宋代文学学会報	6．最初と最後の頁 131～160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 萩原正樹	4．巻 15
2．論文標題 森槐南の詞學―『作詩法講話』に見える詞の起源説―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要	6．最初と最後の頁 51～63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 キン春雨	4．巻 2
2．論文標題 宋代詞学の史資料研究と日中韓・漢字文化圏の交流	5．発行年 2021年
3．雑誌名 立命館アジア・日本研究学術年報	6．最初と最後の頁 35～40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 住吉朋彦	4．巻 56
2．論文標題 『元治増補御書籍目録』翻印と解題（上）	5．発行年 2022年
3．雑誌名 斯道文庫論集	6．最初と最後の頁 133～349
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 富嘉吟	4．巻 16
2．論文標題 重論『古逸叢書』本『玉燭寶典』之底本	5．発行年 2022年
3．雑誌名 敦煌写本研究年報	6．最初と最後の頁 113～126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 富嘉吟	4．巻 18
2．論文標題 松崎慊堂が見た宋元刊本について	5．発行年 2022年
3．雑誌名 人文科学研究	6．最初と最後の頁 1～14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計20件（うち招待講演　4件／うち国際学会　10件）

1．発表者名 萩原正樹
2．発表標題 近藤元粹の詞學について
3．学会等名 立命館大学アジア・日本研究所「日中韓詞学文化交流研究会」（国際学会）
4．発表年 2020年

1．発表者名 萩原正樹
2．発表標題 近藤元粹的詞学
3．学会等名 上海大学海外漢学家高端論壇（招待講演）
4．発表年 2020年

１．発表者名 住吉朋彦
２．発表標題 慶應義塾図書館蔵〔南北朝末隋〕鈔本『論語疏』巻六の文献価値
３．学会等名 成均館大学校大東文化研究学院国際会議「東亞文献学的全新視角－資料環流和書目收藏」（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 芳村弘道
２．発表標題 朝鮮渡り唐本の研究について
３．学会等名 成均館大学校大東文化研究学院国際会議「東亞文献学的全新視角－資料環流和書目收藏」（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 キン春雨
２．発表標題 日本における詞学（宋代の中国詩）の受容と研究
３．学会等名 第二六回AJI研究最前線セミナー
４．発表年 2020年

１．発表者名 富嘉吟
２．発表標題 詩跡としての三郷の成立とその変遷－唐代から宋代まで－
３．学会等名 中唐文学会第31回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 芳村弘道
２．発表標題 董康晩清、辛亥革命時赴日訪書與學術交流的事跡
３．学会等名 明清文人的世界―第五届古典文学国際学術研討會（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 富嘉吟
２．発表標題 官版『唐人選唐詩』底本考
３．学会等名 第6回東亜漢籍交流国際学術会議（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 住吉朋彦
２．発表標題 古活字版日本漢籍の位相
３．学会等名 漢字活字の古今東西（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 住吉朋彦
２．発表標題 古活字版日本漢籍の位相
３．学会等名 高麗大学校文科大学海外碩学招請特講（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 芳村弘道
２．発表標題 収蔵古籍五十年
３．学会等名 台湾大学中国文学系「古典文学新視野：写本、出版与収蔵」研習（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 芳村弘道
２．発表標題 立命館大学所蔵の漢籍貴重本
３．学会等名 2021年度朝鮮渡り唐本研究の研究報告会
４．発表年 2022年

１．発表者名 萩原正樹
２．発表標題 『清平山堂話本』「快嘴李翠蓮記」に見える撒帳詩について
３．学会等名 2021年度朝鮮渡り唐本研究の研究報告会
４．発表年 2022年

１．発表者名 キン春雨
２．発表標題 漢籍交流和文化延伸：以和刻本高青邱詩詞集的刊行為例
３．学会等名 第三届詩詞與詩禮文化研究国際論壇（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 キン春雨
２．発表標題 東アジアの漢籍をめぐる文化交流：13～17世紀の詩集の環流を事例として
３．学会等名 第三四回AJI研究最前線セミナー（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 キン春雨
２．発表標題 日本人の漢詩存稿二種について
３．学会等名 2021年度朝鮮渡り唐本研究の研究報告会
４．発表年 2022年

１．発表者名 住吉朋彦
２．発表標題 慶應義塾図書館蔵〔南北朝末隋〕鈔本『論語疏』巻六的文献価値
３．学会等名 東亜漢籍伝播研究工作坊（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 住吉朋彦
２．発表標題 古城坦堂旧蔵の朝鮮渡り唐本について
３．学会等名 2021年度朝鮮渡り唐本研究の研究報告会
４．発表年 2022年

１．発表者名 富嘉吟
２．発表標題 川文粋について
３．学会等名 お茶の水女子大学中文学会例会
４．発表年 2021年

１．発表者名 富嘉吟
２．発表標題 鄭嵎『雙金』について
３．学会等名 2021年度朝鮮渡り唐本研究の研究報告会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計4件

１．著者名 萩原正樹	４．発行年 2020年
２．出版社 あるむ	５．総ページ数 281
３．書名 日中韓文人交流と相互理解―明治大正期の詩詞を通して	

１．著者名 王兆鵬 著、萩原正樹・松尾肇子・池田智幸 監訳	４．発行年 2019年
２．出版社 朋友書店	５．総ページ数 609
３．書名 宋代文學傳播原論―宋代の文學はいかに傳わったか―	

１．著者名 住吉朋彦（主編）	４．発行年 2021年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 480
３．書名 慶應義塾図書館蔵 論語疏巻六 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵 論語義疏 影印と解題研究	

１．著者名 藤本幸夫・住吉朋彦	４．発行年 2021年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 877
３．書名 書物・印刷・本屋―日中韓をめぐる本の文化史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	富　嘉吟 (FU JIA YIN) (00802696)	お茶の水女子大学・基幹研究院・助教 (34315)	
研究分担者	萩原　正樹 (HAGIWARA MASAKI) (20250532)	立命館大学・文学部・教授 (34315)	
研究分担者	ＪＩＮ　ＣＨＵＮＹＵ (JIN CHUYU) (60865228)	立命館大学・立命館アジア・日本研究機構・研究員 (34315)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	住吉　朋彦 (SUMIYOSHI TOMOHIKO) (80327668)	慶應義塾大学・斯道文庫（三田）・教授 (32612)	
研究分担者	ＣＨＡＮ　ＣＨＩＥＮＨＵＩ (CHAN CHIEHUI) (60834512)	立命館大学・立命館アジア・日本研究機構・研究員 (34315)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	藤本　幸夫 (FUJIMOTO YUKIO)		
研究協力者	魯　耀翰 (NOH JOHANN)		
研究協力者	頼　信宏 (LAI XINGHONG)		
研究協力者	林　振岳 (LIN ZHENYUE)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計3件

国際研究集会	開催年
立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所2019年度　第2プロジェクト日中韓漢籍研究　研究成果報告会	2020年～2020年
国際研究集会 2020年度朝鮮渡り唐本研究の研究報告会	開催年 2021年～2021年

国際研究集会	開催年
2021年度朝鮮渡り唐本研究の研究報告会	2022年～2022年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	南京大学域外漢籍研究所			
韓国	高麗大学校漢字漢文研究所			